

# みやけの風

## 第 175 号

平成16年(2004年)5月29日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

先週末の阿古地区滞在帰島は台風2号のせいで中止になってしまいました。そういえば、4月の阿古地区の時も台風1号がうろうろしていて気になったものです。梅雨になる前に家の手入れに行きたい人が多いでしょうに、三宅島は離島ですからいろんなことが思うにまかせませんね。

### みんなの声

#### 今の気持ち

汗のしょっぱさと、目に流れている汗による目の痛み、手皸で出来た手まめの痛さ。噴火から四年目を迎えようとしている今もなお、あの感触を忘れる事が出来ない。毎日毎日あの炎天下で庭に積もった灰とりに追われた一ヶ月が、つい先日にも思えたり、ズーと遠い昔の様に思えたり。今の私の気持ちは、情緒不安定な日々が続いている。

「島へ帰りたい」正直な気持ちである。でも、今本当に島へ帰って安全なのだろうか？私には右半身麻痺の夫がいる。今の時点では、自力で動ける者のみ島への滞在型帰島を許されている。そのため夫は、島の状況を一度も見えていない。その中で、さあ帰る？残る？と問われても返事のしようがない。実際「分からない」と返事が返ってくる。結局私自身が決断しなければならない。私は、リスクコミュニティに何度も参加した。リスクについては理解しているつもりだ。でも理解と受容とは違う。受容しての帰島を決断しても、その後の生活に今は何も見えてこない。それらに不安になって、気持ちが揺らぐ。今もって身障者（自力歩行不能等）の帰島が許されていないのには、安全性を配慮しての事と思っている。ここで避難解除と同時に、夫をいきなり連れ帰る事が果たして良いのだろうか。いざという時、夫を守れるだろうか？今だ考えがまとまらない。原則論では、自分の身は自分で守る。当然の事ではあるけれども、今回のように、ある程度のリスクを背負っての帰島ゆえに、弱者への行政の細かい配慮を御願いしたいと思っている。

慣れない都会で、島へ帰る事を楽しみにしながら今まで頑張ってきた、ご高齢の方々のためにも、「三宅島へ帰れたぞー」「元気でいて良かったなー」と心から実感出来る、「高齢者に優しい島」作りを、みんなで知恵を出し合って行けたらいいと思っています。

若者の凛々しい姿、子供の屈託のない笑い声、お年寄りの笑みとともに暮らせる三宅島の生活を夢見ている。

(港区港南 早川 マス子)

#### ごいっしょに頑張りましょう

はじめまして。私は、東京ボランティア・市民活動センター（TVAC）で、三宅島支援などの担当となりました清水と申します。

四月からTVACへ配属となり、島について社協や支援センターの方から聞く話は、沖に出なくてもできる鳥賊釣りや、土の匂いが付いた野菜が山盛りで採れる話など、豊かな自然を想像させることばかりでした。その楽しげな様子や、島民連絡会でお会いする方々の横顔から、皆さんの島への思いをじかに感じてきました。

一方で、突然の全島避難から丸4年の月日が経つことを傍観せざるを得なかった日々が、皆さんにどのような気持ちを抱かせてきたのだろうとも思います。

ようやく噴火活動が沈静化し帰島への準備も進みそうですが、その状況を見つめつつ、TVACとしては今後もこれまで同様の支援を続けていきますので、一緒に頑張ってください。

(東京ボランティア・市民活動センター 清水和良)

#### 初めての5泊帰島

4月からの滞在型帰島事業により、1泊3泊5泊の行程で実施されることになり、今回伊豆・伊ヶ谷の5泊を希望し、初めて行くことができました。

無事三池に到着、阿古鑄ヶ浜港に5台のバスが迎えに出て、5泊の私たちは1号車に乗って宿舎に向かいました。今回から1泊～5泊が合同のため、西館、東館に分かれて食事となりました。

1日目は良い天気恵まれ、家の窓を開け風を入れ、布団を干すことが出来ました。先ず天気のうちと思ひ、家の外回り、庭の手入れをする、雨の日は家の中の手入れという具合に、都合よく4日目くらいまで働くことが出来ました。5日目は、台風2号の影響で1日中雨となったので家の中で働き、いつ着発になってもいいように家の戸締りをするように保安員の方から伝えられました。

6日目、台風2号が接近しているため20日の朝3時起き、すぐ乗船できるよう皆準備、4時に宿舎の玄関に集合するように放送がある。4時20分接岸できるかが分かつと保安員から

伝えられる。阿古、三池港とも波が洗っているため、接岸が出来ないということで、皆さんがっかり、部屋に戻って一眠りする。7時半食堂に集合するよう放送があり、半日我が家に帰って働くかの希望を聞かれるが、皆それぞれに戸締りしてきているので、雨もだいぶ降っているため、戻る人は誰もいませんでした。宿舎で骨休めをし、帰りの着岸を祈るばかりでした。

幸い祈りが通じたのか、三池港に予定どおり接岸できるとの知らせ、玄関に時にはみなさん集まり、12時半過ぎにはお世話になった宿舎をあとにしました。

幸いガスマスクを使うこともなく、2時過ぎ無事出航。台風接近のわりには海も静かで8時20分、竹芝棧橋に到着、避難先の我が家に帰り着き安堵しました。

最終日、雨が降って樋が外れているのが分かり、伊豆の駐在さんに直していただきましたことを、心から御礼申し上げたいと思っております。

(葛飾区 五十嵐 文子)

**大崎さんの桜島訪問記**  
**火山の島から その2**

前号より続く 作物として、果樹の多いのに驚きました。特にピワと小ミカンがほとんどです。施設園芸もあります、少数派のようです。桜島大根も一部でやっている程度です。

私も果樹農家ですので、大いに励まされる思いでした。どの樹も低木仕立てです。そして、かなりの割合でそれらの果樹に降灰除けのビニール被覆をしています。パイ

プハウスのビニールを天上だけ張って、横は素通しにしたようなものです。人々と話していても、一番こわいのは降灰だといひます。「灰が葉につけば枯れて落ちてしまう。実につけばそこが傷になり、売り物にならなくなる。ひどい時には、ポトポトと落果してしまう。そこで降灰除けのこんなハウスを補助金で建てているんだ」と話してくれます。

ふと目をやると、補助金事業の看板が立っています。

<b>平成 14 年度 活動火山周辺地域防災営農対策事業</b>	
1、事業種目名	降灰防止・降灰除去施設等整備事業
2、事業細目	降灰地域果樹安定対策
3、事業主体名	かごしま農業協同組合 代表理事組合長

国庫補助が50%近く出ていました。厳しい条件のなかで農業を続けようという農民の強い意志と、その農家を支えようという国の強い意思を、その看板から感じとり、しばらく見つめていました。

そして、三宅島。次は私たちの番だ。そんな思いが心の中に広がっていきました。次号へ続く (東久留米市 大崎 興洋)